

審査の結果の要旨

氏名 徳永 友里

本研究では、2型糖尿病予防に推奨される食習慣・身体活動習慣を達成するための日常生活における具体的な食行動・身体活動行動についての非対面式看護支援を提供するために開発された生活習慣改善プログラムソフトウェアを用いた自己管理支援の効果を、2型糖尿病家族歴陽性成人を対象とした1年間のランダム化比較試験により検証したものであり、以下の結果を得ている。

1. 主要評価項目のうち、食事摂取カロリーについて、介入期間中に介入群において有意な低下を認めしたが、介入期間終了後では変化を認めなかった。脂肪エネルギー比と身体活動量については、全期間において変化を認めなかった。
2. 副次的評価項目のうち、食行動や身体活動行動の一部において有意な改善を認めた。BMI、腹囲、血液データでは変化を認めなかった。

以上、本論文は、2型糖尿病家族歴陽性者に対する、食行動と身体活動行動を日常生活にとり入れるための非対面式自己管理支援の効果を明らかにした。本研究は、2型糖尿病ハイリスク者であるにも関わらず、予防的介入の対象者としてスクリーニングされてこなかった2型糖尿病家族歴陽性者をリクルートし、第二次・第三次予防においてはスタンダードであるにもかかわらず、これまで第一次予防では行われていなかった自己管理支援を、実臨床の場で実現可能性が高いと考えられるコンピュータを用いたプログラムを非対面式の介入経路で提供したものである。本研究は、本邦における新たな2型糖尿病第一次予防戦略の考案に貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものだと考えられる。